

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】平成 29 年 5 月 25 日 (2017.5.25)

【公開番号】特開 2015-209731 (P2015-209731A)

【公開日】平成 27 年 11 月 24 日 (2015.11.24)

【年通号数】公開・登録公報 2015-073

【出願番号】特願 2014-93573 (P2014-93573)

【国際特許分類】

E 0 6 B 9/58 (2006.01)

【F I】

E 0 6 B 9/58 A

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 4 月 4 日 (2017.4.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

スクリーン部材と、

前記スクリーン部材の上下方向に沿って延び、前記スクリーン部材の左右方向における変位を規制しつつ前記スクリーン部材の前記上下方向における移動が可能となるように前記スクリーン部材の側端部を保持するレール部材と、

前記上下方向に沿って延びるとともに、前記レール部材を収容する凹部を有するレール収容部材と、を備え、

前記レール収容部材は、前記凹部を挟んで前記スクリーン部材の厚み方向の両側に位置する第 1 側壁および第 2 側壁を有し、

前記レール部材は、前記第 1 側壁に対向する第 1 対向壁と、前記第 1 対向壁から前記第 1 側壁側に延びる第 1 舌片と、前記第 2 側壁に対向する第 2 対向壁と、前記第 2 対向壁から前記第 2 側壁側に延びる第 2 舌片と、を有し、

前記第 1 舌片および前記第 2 舌片は、前記レール部材の前記第 1 舌片および前記第 2 舌片以外の部位に比して弾性率が低く、

前記第 1 舌片が前記第 1 側壁と前記第 1 対向壁との間において弾性変形するとともに、前記第 2 舌片が前記第 2 側壁と前記第 2 対向壁との間において弾性変形し、これにより前記レール収容部材が前記レール部材を前記凹部から着脱可能な状態で保持する、スクリーン装置。

【請求項 2】

前記レール部材は、前記スクリーン部材の前記上下方向に沿って延びるとともに前記スクリーン部材の前記側端部を収容する収容部と、前記上下方向に沿って延びるとともに前記収容部の内部と外部とを連通するスリットと、を有し、

前記スリットの幅は、前記スクリーン部材の前記側端部の厚みよりも小さく、

前記レール部材は、前記スクリーン部材の前記側端部が前記スリットを通じて前記収容部に収容されることで、前記スクリーン部材の前記左右方向における変位を規制する、請求項 1 に記載のスクリーン装置。

【請求項 3】

前記レール収容部材は、前記第 1 側壁および前記第 2 側壁を連結する第 1 底壁と、前記第 1 底壁から前記凹部へ延びる第 1 中間壁と、前記第 1 底壁から前記凹部へ延びるととも

に前記第 1 中間壁よりも前記第 2 側壁側に位置する第 2 中間壁と、をさらに有し、

前記レール部材は、前記第 1 底壁に対向する第 2 底壁と、前記第 2 底壁から前記第 1 底壁側へ延びる第 1 突起部と、前記第 2 底壁から前記第 1 底壁側へ延びるとともに前記第 1 突起部とは離間する第 2 突起部と、をさらに有し、

前記第 1 突起部が前記第 1 側壁と前記第 1 中間壁との間の空間に挿入されることで、前記第 1 舌片が前記スクリーン部材の厚み方向において前記第 1 突起部と前記第 1 側壁との間または前記第 1 突起部と前記第 1 中間壁との間で弾性変形するとともに、前記第 2 突起部が前記第 2 側壁と前記第 2 中間壁との間の空間に挿入されることで、前記第 2 舌片が前記厚み方向において前記第 2 突起部と前記第 2 側壁との間または前記第 2 突起部と前記第 2 中間壁との間で弾性変形し、これにより前記レール収容部材が前記レール部材を保持する、請求項 2 に記載のスクリーン装置。